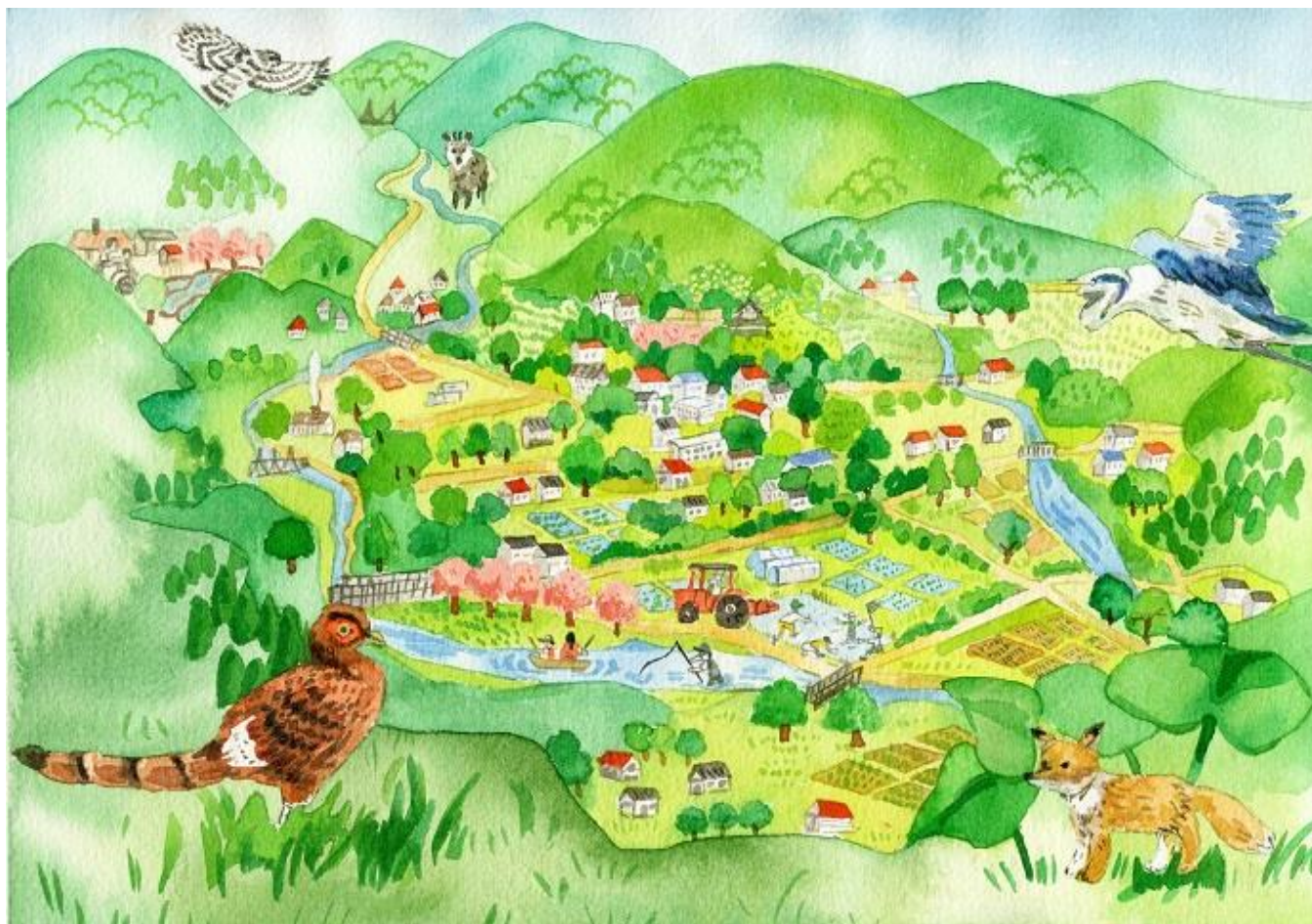


# 令和7年度オーガニックビレッジ取組紹介【綾町】



綾町マスコット「もりりん」



令和8年1月30日  
綾町役場 農林振興課



## 目次

0. はじめに
1. オーガニックビレッジ宣言
2. オーガニック給食
3. 有機JAS認証
4. 綾オーガニックスクール
5. 販路について
6. 有機農業推進大会
7. 課題と来年度に向けて

□第2回 有機農業推進ネットワーク集会 in 九州



0. はじめに

宮崎市から北西約24kmに位置

人口6,465人 (R8.1.1現在)

面積95.19km<sup>2</sup>

→町の80%が森林

→そのうち80%が国有林

日本最大規模の照葉樹林

→1982(S57)年 九州中央山地国定公園に指定



綾町のまちづくり

- ・ほんものをつくるまち
- ・手づくりのまち
- ・観光イベントのまち
- ・スポーツ合宿のまち



綾手づくりほんものセンター

基本理念

「自然と調和した豊で活力に満ちた教育文化都市」

農業の現状

農林業センサス

	農業者数 (人)	耕地面積 (ha)			
		田	畑	樹園地	計
平成17年	432	261	151	65	477
平成22年	392	238	141	60	439
平成27年	360	215	138	56	409
令和2年	318	199	201	42	442
令和7年	257	180	124	36	340

綾町憲章 (昭和58年3月制定)

- 自然生態系を生かして育てる町にしよう
- 健康で豊かな活力ある町にしよう
- 青少年に誇りと希望をいだかせる町にしよう
- 生活文化に創意と工夫をこらす町にしよう
- 思いやりとふれあいで明るい町にしよう

綾町マスコットキャラクター  
☆もりりん☆



## □第2回 有機農業推進ネットワーク集会 in 九州

### 1. オーガニックビレッジ宣言

R5.4.28

40年以上前から「自然生態系」を生かす農業（町づくり）を展開してきました。国のみどりの食料システム戦略に併せて、これまでの取組みを発展させ、未来の農業のにつなげようという思いを込めて「オーガニックビレッジ」を宣言しました。

- 1973年（S48） 一坪菜園の普及と野菜の種子の配布  
家庭菜園コンクール
- 1988年（S63） 「自然生態系農業の推進に関する条例」を制定
- 1989年（H.元） 綾手づくりほんものセンター開設  
有機農業開発センター設置  
有機農業推進会議・実践振興会発足
- 2012年（H24） 「綾ユネスコエコパーク」登録
- 2023年（R5） 「オーガニック給食推進に関する条例」  
「オーガニックビレッジ」宣言  
「オーガニックスクール」開校



- ・ 森林伐採計画への反対
- ・ 町民の健康維持、食生活の改善



- ・ 自然生態系を守りながら消費者の健康と文化的な生活の確保と健全な土づくりを目指す



- ・ 町づくりの基本となり他分野（商工観光や移住政策等）への展開



郷田 實 氏



前田 穰 氏



## □第2回 有機農業推進ネットワーク集会 in 九州

### 2. オーガニック給食

R5.3

#### 「綾町オーガニック給食の推進に関する条例」を制定

学校給食における野菜については、町独自の認証制度に基づき認証された野菜を積極的に取り入れており、同時に地産地消の推進を行っています。今後さらに学校給食へ多くのオーガニック食材を提供することで、将来を担う子どもたちが食や環境への関心、郷土愛を深めていくことにつながります。

#### 【近年の取り組み】

令和5年度

- ・ワーキンググループ 4回開催
- ・先進地視察研修  
(福岡 ふたば幼稚園 伝統和食)  
(東京 武蔵野市 給食センター)

令和6年度

- ・ワーキンググループ 2回開催
- ・有機米の取組みの開始  
12月～小中学校へ提供開始  
(生産者5名、収量計4.2 t)  
紙マルチ田植機、アイガモロボット一部活用

令和7年度

- ・ワーキンググループ1回開催
- ・有機米の取組み  
小中学校給食を全て有機米へ
- ・熊本県南関町議会視察対応
- ・東京都江東区行政視察対応



農協青年部の取組み「お米学習」

## □第2回 有機農業推進ネットワーク集会 in 九州

### 2. オーガニック給食（その2）



今日の献立は【キーマカレー・フルーツジュレ】でした。今回は給食時間の放送内容を紹介します。『今日はキーマカレーです。キーマカレーとは、インド発祥のひき肉を主役にしたカレーのことです。「キーマ」とは、インドの言葉で「細かいもの」という意味です。細かく刻んだ野菜とひき肉を炒めて、スパイスと煮込んで作る汁気が少ないカレーです。じゃがいもも、細長く切って、食べやすくしています。よく噛んでいただきましょう。』でした。とても美味しいキーマカレーありがとうございます。それでは本日の綾町食材の生産者の方々を紹介します。米が有機米でアヤオーガニックワークスさん、エリンギが古屋地区の宮崎産業さん、にんじんが久木野地区の郡さん、じゃがいもが揚町地区の西郷さんでした。今日も美味しい食材・美味しい調理ありがとうございました。



綾小学校給食



綾中学校給食

### 3. 有機JAS認証

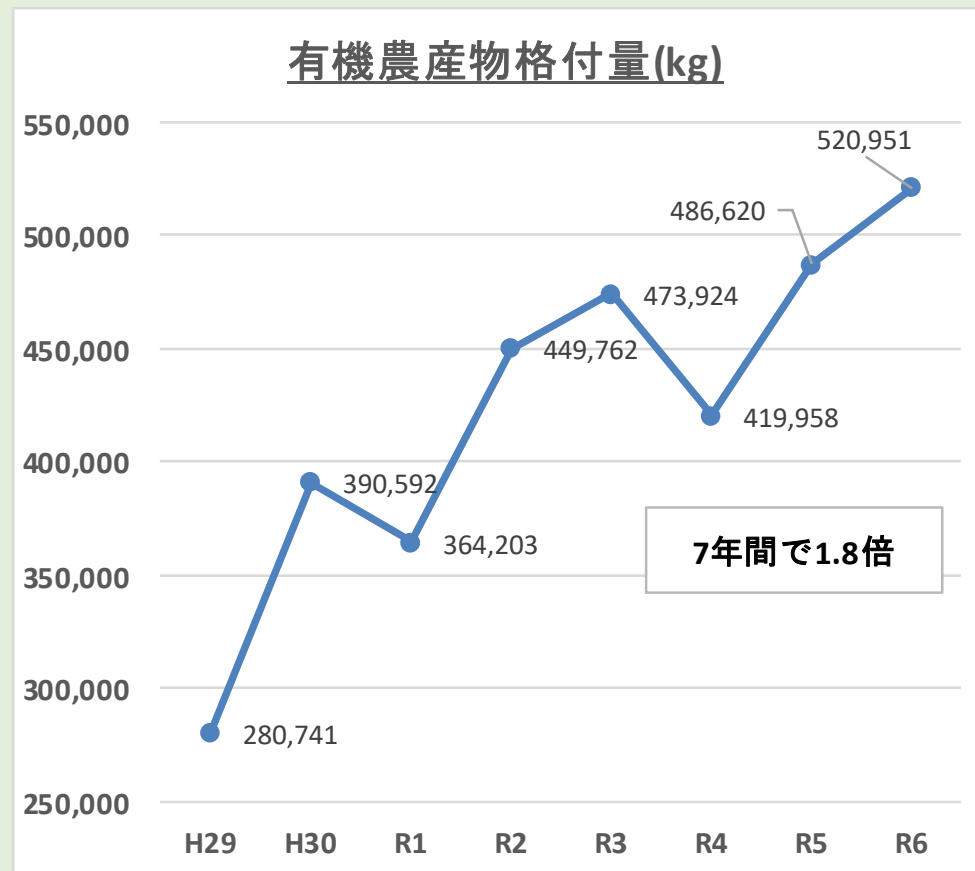
認証面積 (R7.10月末) 農地面積 26.7ha

有機農産物の 生産行程管理者	有機農産物の 小分け業者	有機加工食品
1 2	1	4
—	JA	(せんぎり大根2、酢、 ピクルス酢)

○有機JAS (農産) の推移

	R1	R2	R3	R4	R5
生産者数(人)	11	11	11	11	13
面積 (a)	1,996.4	2,022.8	2,049.2	2,308.2	2,660.2
前年比	96.95%	101.32%	101.31%	112.64%	115.25%

\*数値は年度末



## □第2回 有機農業推進ネットワーク集会 in 九州



### 4-1. オーガニックスクール

#### 有機農業を学べる学校

有機農業の生産者育成と栽培技術の継承を目的に令和5年6月10日に開校

R7.4入校式・記念撮影



スクール講師（アヤオーガニックワークスメンバー）



#### スクールの運営体系

事業主体：  
綾町自然生態系農業推進会議  
(事務局 役場農林振興課)



運営主体：  
合同会社アヤオーガニックワークス

1期生の古川氏は令和7年5月に卒業、現在は2期生3名、3期生2名の計5名の研修生が、綾町の自然生態系農業の理念や取り組み、農業経営、土づくり、栽培技術、農業機械の操作を学び、綾町での就農を目指しております。また、地域おこし協力隊としても活動しており、地域密着型のスタイルで地元にも貢献しています。

(令和7年度主な活動)

・耕作放棄地の整備、県内・熊本視察研修、就農相談会への参加、郷土芸能への参加etc



研修生実習の様子

## 4-2.オーガニックスクール

### ・実践的な技術：陽熱処理、スマート農業の導入

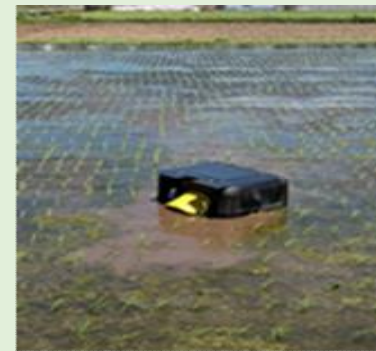
太陽熱処理中の圃場（人参）



紙マルチの導入



アイガモロボットの導入



### ・専門的な座学講座：R7天敵利用・土づくり講座（各5回開催）

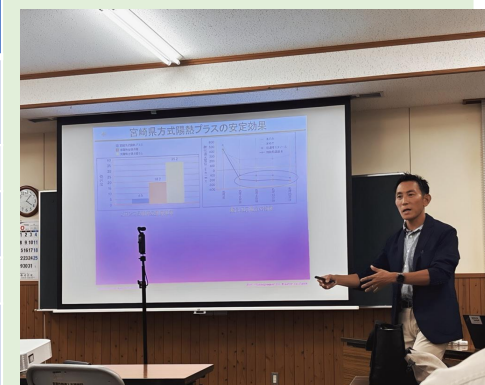
●天敵利用講座 宮崎大学農学部 元教授 大野和朗氏

- 1 なぜ、害虫が問題になる？  
自然生態系と農業生態系の違い
- 2 化学農業中心の栽培での問題
- 3 実例1～天敵に優しい農業で何が変わる？
- 4 実例2～天敵の働きを高める農業へ
- 5 天敵が働ける環境づくり

●土づくり講座 環境土壌クリニック代表 神原哲士氏

- 1 土の中で何が起きているのか 1
- 2 土の中で何が起きているのか 2
- 3 緑肥の可能性と使い方
- 4 自分でできる土壌検査
- 5 これからの綾農業が取り組むべき土づくり対策

環境土壌クリニック 神原 哲士氏



## 4-2.オーガニックスクール



### ■令和7年度実証

#### 1 アイガモロボットの実証(2台導入)

・田植え翌日にアイガモロボットを投入した水田は、十分な抑草効果が得られたが、田植えから5日経過してから投入した水田では、雑草を押さえることができなかった。

・1日の稼働時間は「2時間以内/10a」が推奨とされているのに、4a、7aのほ場に3日程入れっぱなしにしたところ、苗がなびき、浮いてしまい、ところどころ稲穂がないブロックが発生。



#### 2 紙マルチ田植機の実証(1台導入)

・田植機のオペレーターの力量が低い場合、紙マルチの重なりが足りず、ヒエが発生する。

※直進アシストがあると改善されるかもしれない。

・酷い耕作放棄地の跡地では、紙マルチの縁に沿って直線的にヒエに覆われた場所が発生。水稻は枯死。

均平がとれていない水田の場合、水が足りない場所では紙マルチに沿った形でヒエが優先する。



U

## 4-3. オーガニックスクール

### ほ場実習



レタスの収穫



人参の収穫①



白ネギの収穫



ショウガの収穫



稲の成熟期調査①



レタスの出荷



人参の収穫②



ジャガイモの収穫



さつまいも苗植



稲の成熟期調査②

# 第2回 有機農業推進ネットワーク集会 in 九州

## 4-4. オーガニックスクール



### 有機の担い手育成

#### 研修生を毎年受け入れ

#### 綾オーガニックスクール

「綾町では、有機農業の担い手育成を目的として、毎年研修生を受け入れ、体系的に指導している。研修生は、有機農業の基礎知識や実践技術を学び、卒業後は、地域の農地を借りて、有機農業を営む。また、卒業生は、地域の有機農業の発展に貢献している。」

宮崎県綾町 綾オーガニックスクール

「研修生は、有機農業の基礎知識や実践技術を学び、卒業後は、地域の農地を借りて、有機農業を営む。また、卒業生は、地域の有機農業の発展に貢献している。」

技術・経営を体系的に指導

松井さん等の指導でカボチャを収穫する研修生1年

定着へ農地も確保

研修生が農地確保もスクールを運営。研修生は、卒業後、地域の農地を借りて、有機農業を営む。また、卒業生は、地域の有機農業の発展に貢献している。

山澤千春

ひと意見

「有機農業の担い手育成は、地域の発展に不可欠である。綾町では、有機農業の担い手育成を目的として、毎年研修生を受け入れ、体系的に指導している。研修生は、有機農業の基礎知識や実践技術を学び、卒業後は、地域の農地を借りて、有機農業を営む。また、卒業生は、地域の有機農業の発展に貢献している。」

農業共済新聞 R7.9.3

### 有機農業の学校

#### 耕作放棄地で有機農家を増やす

綾町では、耕作放棄地の活用を目的として、有機農業の学校を開設している。学校では、有機農業の基礎知識や実践技術を学び、卒業後は、地域の農地を借りて、有機農業を営む。また、卒業生は、地域の有機農業の発展に貢献している。

綾町 有機農業の学校

耕作放棄地で有機農家を増やす

森本隆太 (有機農業推進員)

有機農業の学校は、地域の発展に不可欠である。綾町では、有機農業の担い手育成を目的として、毎年研修生を受け入れ、体系的に指導している。研修生は、有機農業の基礎知識や実践技術を学び、卒業後は、地域の農地を借りて、有機農業を営む。また、卒業生は、地域の有機農業の発展に貢献している。

2期生(2人)、3期生(2人)が在籍しています。県内には、綾町東海地方のみならず、他県からも研修生が参加しています。研修生は、有機農業の基礎知識や実践技術を学び、卒業後は、地域の農地を借りて、有機農業を営む。また、卒業生は、地域の有機農業の発展に貢献している。

2期生(2人)、3期生(2人)が在籍しています。県内には、綾町東海地方のみならず、他県からも研修生が参加しています。研修生は、有機農業の基礎知識や実践技術を学び、卒業後は、地域の農地を借りて、有機農業を営む。また、卒業生は、地域の有機農業の発展に貢献している。

2期生(2人)、3期生(2人)が在籍しています。県内には、綾町東海地方のみならず、他県からも研修生が参加しています。研修生は、有機農業の基礎知識や実践技術を学び、卒業後は、地域の農地を借りて、有機農業を営む。また、卒業生は、地域の有機農業の発展に貢献している。

季刊地域 R7.8月号

様々なメディアにも取り上げていただき、有機農業を学ぶスクールの活動を全国へ発信しています。栽培や経営について体系的に学ぶ超実践形式であることや耕作放棄地をスクールで整備して卒業業後に自らの農地として活用すること、農産物の販売先が確保されていること、地域おこし協力隊として地域活動へ参加していることは特に関心を寄せられています。

## 5-1. 販路について

### 主な販売先

グリーンコープ（福岡）

### イオン創造

関東イオンモール

中部イオンモール

大阪イオンモール

九州イオン

マックスバリュー

各種県外のスーパー等

### 宮崎県内

HEARTY ナガヤマ

6店舗出荷中



マックスバリュー綾店



マックスバリュー綾店POP



HEARTYナガヤマ

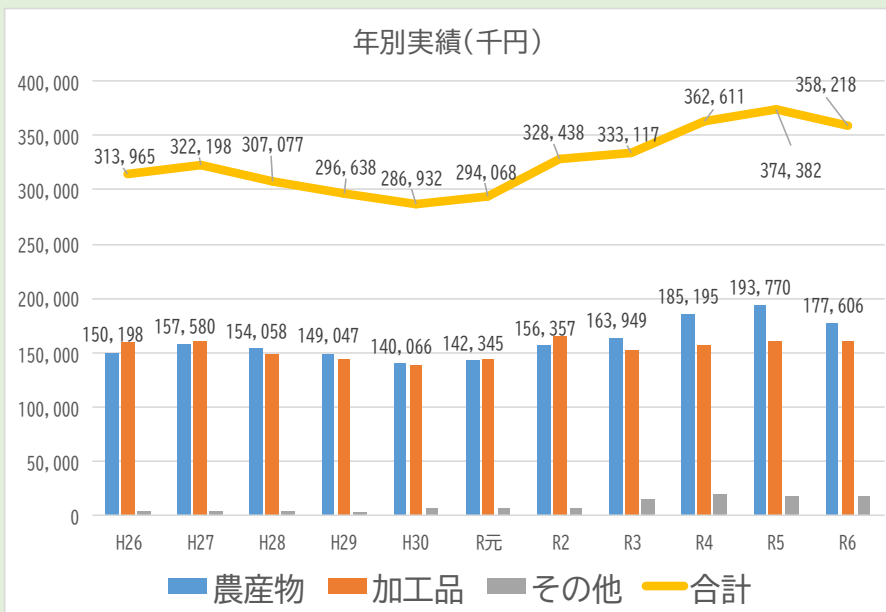


HEARTYナガヤマPOP

## 5-2. 販路について

年別実績 (単位：千円)

	農産物	加工品	その他	合計
H26	150,198	159,061	4,706	313,965
H27	157,580	160,227	4,391	322,198
H28	154,058	148,816	4,203	307,077
H29	149,047	143,688	3,903	296,638
H30	140,066	139,235	7,631	286,932
R元	142,345	144,100	7,623	294,068
R2	156,357	164,366	7,715	328,438
R3	163,949	153,183	15,985	333,117
R4	185,195	157,292	20,124	362,611
R5	193,770	161,505	19,107	374,382
R6	177,606	161,505	19,107	358,218



### ふるさと納税の寄付金額と件数

年度	寄付金額 (単位：千円)	寄付件数 (単位：件)
平成20年度	3,139	170
平成21年度	3,415	276
平成22年度	7,837	566
平成23年度	8,625	742
平成24年度	18,085	1,477
平成25年度	247,328	16,109
平成26年度	943,967	62,991
平成27年度	1,380,341	84,949
平成28年度	997,517	63,118
平成29年度	604,049	35,457
平成30年度	356,403	15,055
令和元年度	315,960	14,328
令和2年度	484,595	21,814
令和3年度	615,174	29,884
令和4年度	645,837	31,456
令和5年度	539,743	24,621
令和6年度	495,429	20,982

綾手づくりほんものセンターの売上推移



## 6. 有機農業推進大会

### R7.11.9 第34回有機農業推進大会を開催しました。

生産者と消費者をつなぐ大会で、毎年テーマを決めて講師を招いています。今年度は、東京大学大学院 農学生命科学研究科 特任教授 鈴木 宜弘 氏をお招きして、日本の有機農業と食の未来についてご講演いただきました。

オーガニックスクール3期生の岩切氏がスクールで学んだこと、また就農に向けた意気込みを発表しました。

#### オーガニックスクール生 意見発表



講師 鈴木宜弘 氏  
東京大学大学院 農学生命科学研究科 特任教授  
1958年三重県志摩市生まれ。東大農学部卒、博士（農学）。農水省勤務、九大大学院教授を経て2006年東大教授、2024年より現職。専門は農業経済・食料安全保障。一般財団法人食料安全保障推進財団理事長。著書やメディアで農業政策・食料自給率等を発信し、政策提言を行う。

＼ 農業の未来に種をまこう！ ＼  
**第34回有機農業推進大会**  
2025年のテーマは「綾町農業の未来」  
有機農業の先進地として歩んできた綾町も、資料高騰や異常気象といった新たな課題に直面しています。本大会は、地域で守り育てる持続可能な農業の姿を共に描き、次世代へ継ぐ道筋を共に描きます。

日時 2025年 11月9日 日  
8:50-12:15(開場8:30)  
会場 綾町公民館文化ホール

参加費無料  
さらに、来場者の中から抽選で有機米プレゼント  
※有機JASと同等の基準で育てています  
申込〆切：11/7(金)

お問い合わせ  
綾町自然生態系農業推進会議事務局（農林振興課内）  
担当：有機農業振興係  
0985-77-0100 FAX: 0985-77-0962

東京大学大学院 農学生命科学研究科  
特任教授 鈴木 宜弘 氏



## 7. 課題と来年度に向けて

(課題)

- ・オーガニックスクール卒業後の支援体制について  
農業関係支援資金のサポート体制や農地確保。  
経営開始資金（年齢対象外者）への対応。
- ・施設野菜の取組み体制の見直し  
基幹品目である施設きゅうりの減農薬体制（天敵活用）の構築。  
沖縄県にて天敵利用による先進地研修を実施。  
（みどり交付金 グリサポ事業活用中）
- ・有機米の取組み拡大  
有機給食米の面積及び収量拡大、エリアごとに有機と慣行を分ける。  
紙マルチ田植え機、アイガモロボットなどの機械導入による省力化。  
ふるさと納税での販売開始 R8.2月～
- ・有機農業推進大会の継続とPR活動の充実  
消費者への理解醸成のため、内容ある大会運営を行う。  
有機農業と国スポ2027を絡めた取組みを検討。



きゅうりの天敵活用視察  
(沖縄県)



オーガニックスクール生の募集相談会



R6.12～有機米給食導入



ふるさと納税商品化

# ご清聴ありがとうございました